

秋田・新屋演習場

何のためのイージス・アシヨア配備か

石田 寛

イージス・アシヨアとは何か

2017年11月12日、「地上イージス、本県候補も来月にも決定」と地元紙に大きく報道された。それによると「北朝鮮に対する弾道ミサイル防衛の新規装備となる地上配備型迎撃システム、イージス・アシヨアの導入に関し、政府は秋田、山口両県を配備先の候補地として検討」とある。政党はじめ平和団体はすぐに配備撤回の要請書を知事や秋田市長に提出した。

同時に秋田県平和センターが呼びかけて、「イージス・アシヨア配備問題を考える実行委員会」「イージス・アシヨア問題を考える新屋住民の会」を立ち上げ、撤回運動に取り組みることとなった。

イージス・アシヨアとは、イージス艦が搭載している迎撃システムを地上に配備するもので、高性能レーダーと指揮通信・コンピューター・情報通信システム、迎撃ミサイルを搭載したVLSランチャーがセットで配備される。敵国から飛んでくる弾頭ミサイルを大気圏外で迎撃することが可能であり、現在日本が共同で開発している迎撃ミサイル「SM3ブロックIIA」を使用することで射程範囲が

大幅に伸びる。秋田と山口に2基設置することにより日本全土をカバーできるとしている。

防衛省は、秋田の新屋演習場を選定した理由として①我が国全域を防護する観点からパランスのよい日本海側の北と南に2基、②弾道ミサイルの探知に支障が出るため山など遮蔽がない場所、③レーダーと発射台を適切に設置するため広く平坦な敷地を確保できる場所、④レーダー等の運用のため電気・水道等の安定的な供給が見込める場所、⑤以上から速やかに配備できる自衛隊施設等を対象に条件を満たすことができる場所を調べた結果、秋田県の陸自新屋演習場と山口県の陸自むつみ演習場を候補地としたと説明する。

しかし、秋田市の新屋演習場の周辺は住宅密集地で約1万3000人が住む。勝平小、勝平中、秋田商業高校、福祉施設などが隣接していて、県庁や市役所、市立秋田総合病院なども3キロ圏内にある。

住民を中心に勉強会を始める

政党や平和団体が前面に出るよりも、地元住民を中心に運動をつくっていききたいと先ず取り組んだのは勉強会でした。

12月17日に軍事評論家の前田哲男氏を招

き講演会が行なわれ、新屋地区の住民など約150人が参加した。前田さんは配備計画の狙いや背景を解説し「イージス・アシヨアは用途が攻撃にも使用できるので最初に攻撃対象になる。議論なしに決められようとしており住民は怒りの声をあげるべきである」と力説した。

2月3日と4日は講師に元陸上自衛隊レンジャー隊員の井筒高雄さんを招いて、新屋町内など隣接地で学習会を行った。

会場には2日間で地元住民を中心に250人を超える参加があった。井筒さんは「北朝鮮がミサイル攻撃に出る可能性は低い。原発の冷却水取水口に海上からテロをかければ、それで日本は滅びる。地上イージスを2箇所というなら、戦略上は佐渡(新潟県)と下甌島(鹿児島県)の航空自衛隊基地に配備するのが正解。これだと北朝鮮だけでなくロシア極東部も中国主要部もカバーできる。露骨すぎて中ロが反発する。それが怖くて秋田・山口なのだろう」と語った。

5月20日、「イージス・アシヨア問題を考える新屋住民の会」は、京大工学部元講師で「電磁波からのちを守る全国ネット」(事務局・東京)の荻野晃也代表を招いて勉強会を開催し120人が参加した。荻野代表はレーダーからの電磁波は放射先だけでなく、横方向にも漏れるサイドローブがあることを説明。「レーダーの向きや角度で異なるが、新屋周辺の住宅地にも影響が出る恐れもある」との見方を

示した。

防衛省が来県し知事や市長などに説明に来た時は毎回、県庁前に平和団体はじめ新屋演習場隣接地の住民も参加するようになる。横断幕を広げプラカードを持ち寄り「イー・ジェス・ア・シヨア撤回」「知事も頑張れ、市長も頑張れ」と氣勢をあげた。

7月16日の秋田魁新報の小笠原直樹社長が同紙に社の方針を掲載する。

「新聞社の役割の第一は、読者に成り代わって政府や権力者の行為を監視し、再び戦争に駆り出されることのないよう言論の力をもってチェックすることであると考えている。

朝鮮半島の政治構造が転換点を迎えているいまだからこそ、南北の融和と民生安定に、隣国として力を尽くすべきではないのか。地上イー・ジェスを配備する明確な理由、必要性が私には見えない。兵器に託す未来を子どもたちに残すわけにはいかない」

この意見は多くの県民の背中を押してくれたものと思う。

新屋演習場近隣の16町内会でつくる「新屋勝平地区振興会」は7月25日、配備に反対する決議を採択し、8月に知事、秋田市長、県議、市議に「イー・ジェス・ア・シヨアの配備計画の撤回を求める要望書」を郵送した。

8月18、19の両日、防衛省は新屋演習場から約1キロの秋田市勝平地区のコミュニティセンターで初めて地元説明会を開き、これには計4回で延べ500人が詰めかけた。防衛省の説明は「丁寧の説明し理解を得たい」と繰り返しばかりで、地元住民の不安の声はさらに高まった。

防衛相は、地元への反発を受け、9月12日に延期した新屋演習場での地質測量調査入札の開札については予定通り実施し、電波環境調査の入札も同日併せて行なうと説明。「調査で不適との結論になれば、配備候補地を見直す」と述べた。可及的速やかに配備したいと繰り返し述べていたのに調査結果が不適なら配備先を見直すと変えてきたのは調査を何としても進めたい方便だろう。9月12日、防衛省は地質、測量調査の一般競争入札を開札した。市民団体は早速、12日に県議会、市議会を訪ね全議員に配備反対を申し入れた。

イー・ジェス・ア・シヨアに反対する理由

*コストの問題

イー・ジェス・ア・シヨア1基1340億円と言われているが、夏の段階では800億円。またポーランドで今年完成されると言われているのが750億円。12月の閣議決定では1000億円だった。迎撃用ミサイルは1発40億円、両県で48発、約1900億円。今後造成、防潮堤など、どこまで膨れ上がるか誰もわからない。そういうものが本当に必要な

のか。

これまでも日本は、国内にある米軍基地に多くの支援を行なってきた。年間7000億円の支援は秋田県の一般会計よりも多い。一日に直すと19億円、毎日国民の税金19億円を日本国内にある米軍基地に助成しているのだ。それでも足りないとい、昨年トランプ大統領の来日時に米国の武器の購入を要請され、中期防衛力整備計画にもなかったのに北朝鮮のミサイル実験を理由に突然だしてきたのがイー・ジェス・ア・シヨアだ。

米軍の基地は世界中にあるが、ほとんどが米国の予算で賄われている。土地の借り上げ料まで米国が払っている。なぜ日本だけが米国のために国民の納めた貴重な税金をこんなに使わなければならないのか。外国から日本を見たら理解できないのではないだろうか。米国から見れば日本は都合のよい国、便利な国、そう言うのではないのか。

*なぜ、秋田・山口か

北朝鮮の弾頭ミサイルを迎撃するというなら、北朝鮮に直線で近い位置が最適地になる。仮に敵国が狙うとすれば人口の集中している東京周辺や大阪周辺が狙われないだろうか。そうなる秋田と山口からでは迎撃が間に合わない。なのに秋田・山口を最適地とするのはなぜか。

北朝鮮から秋田・山口を直線で結ぶとハワイとグアムに行きつく。結局、ハワイとグアムの米軍基地に飛ぶミサイルを事前に迎撃す



るための設置という以外理由が見つからない。日本を守るのではなく米国を守るために秋田・山口は最適地なのである。

*弾頭ミサイルを迎撃できるか

ハワイの実験場で3回実験したけれども、1発しか当たらなかった。飛んでくるのは550キロ上空の大気圏外。命中するという保証は誰もできない。

1発を迎撃するのに数発撃たなければならぬ。10発以上飛んで来たかどうか。迎撃用ミサイルを24発より多く装備しないなら効果は期待できない。10分で飛んでくるなら逆に太平洋側に飛んで行くのを追っかけて撃つことになるがその方が難しい。もし有事になれば、秋田は標的になる心配も大きい。しかしイーリス・アシオアを狙うよりも国内にある54基の原発を狙った方が脅威となる。テロの標的に原発が狙われたら福島原発事故以上の被害が予想できる。イーリス・アシオアを設置するのなら、その前に54基の原発を廃炉にすべきではないのか。

*電磁波問題

県民が一番心配しているのは人体への影響だ。イーリス・アシオアのハワイの実験場は広大な土地で、基地の端から端までが見えない。住宅地から離れ人的被害がないと言われている。だが、ハワイの実験場の入り口には「放射線危険区域」という看板がある。ルーマニアの基地の上空も飛行禁止区域になっている。

4年前に、京都府の京丹後市に米軍のXバ

ンドレーダーが設置されたが、ドクターヘリが9回もレーダー波を止めてほしいと願っている。強烈なレーダー波を出すので、6キロの幅で6キロの高さまで飛行禁止区域になっている。秋田県の消防防災ヘリコプターが行なう海難事故の救出に影響がないのか。秋田空港は風の向きにより旅客機が海岸から入る場合もあり影響はないのか。

秋田市の新屋演習場は住宅地まで300メートルと近く、勝平小学校、勝平中学校、秋田商業高校も1キロ圏内にある。3キロ圏内には市役所、県庁、市立総合病院もある。

電磁波過敏症の人は携帯電話や電子レンジ、テレビ、IH調理器を使用できない。頭痛めまい、吐き気をもよおす。心臓ペースメーカーを埋め込んでいる人から「とても不安だ、恐怖を覚える」との声も聞かれた。将来、脳腫瘍や小児がん、白血病、そういう患者が出てきたとき、誰が責任をとるといえるのか。

*外交問題について

秋田県は、昨年、中国甘粛省と友好提携35周年の記念行事を行なった。これからも中国と友好を深めながら産業振興につながると県民は考えている。ロシアとの交流もある。プーチンさんに秋田犬を贈り、友好が広がっている。今年は今平昌オリンピックでメダルを取ったザギトワ選手に秋田犬が贈られてワイバーンしている。ロシアやフランスなど外国からの観光客が大幅に増えている。

友好が広がるとき、秋田にイーリス・アシオ

アを設置する。射程距離が2000キロ以上に延びれば、当然、中国とロシアが射程圏内に入ってくる。中国やロシアに、右手で握手を求め、左手でけんこつを構えている姿に見えるだろう。特にロシアは、地上イーリスをルーマニアに配備され近くポーランドにも設置、その上秋田に配備されるということになれば、懸念を表明するのは当然だろう。

日本の行くべき道

6月に米朝首脳会談があり、朝鮮半島の非核化について話し合いが行なわれている。核もミサイルも使用しない世界へ向かう一歩になる。日本は世界で唯一、広島と長崎に原子爆弾が落とされた国だ。あの悲惨な戦争を二度と繰り返さないと、9条で戦争放棄を宣言した平和憲法をもち、戦後、経済発展をしてきたのだ。日本こそ世界の紛争や戦争を止めようと声高に叫べる、反戦のリーダーになれる、ならなければならない。日本のとるべき道は、弾頭ミサイル迎撃に備えるのではなくミサイルが飛んで来ないように対話による平和外交を進めるべきだろう。イーリス・アシオア配備は抑止力より世界の軍拡への道を選択するもので日本を逆に危険にさらすことになる。以上を踏まえ、さらに県民の結束を強め反対運動を構築し撤回まで闘いを続けようと思う。

(いしだ・ひろし/秋田県議会議員)